

千葉県ギャンブル等依存症対策推進計画（中間見直し）（試案）に関する意見募集結果について

1. 意見募集期間 令和7年2月14日（金）から令和7年3月7日（金）まで

2. 意見の提出状況

(1) 意見の提出者数 12名（個人） (2) 延べ意見数 12件 (3) 提出方法 メール

3. 提出された意見と県の考え方

※取りまとめ上、趣旨を損なわない範囲で意見を要約しています。

No	頁	意見数	意見の概要	県の考え方
1	—	1	<p>私(母の立場)は息子が大学生の頃、アルバイト先の先輩に貸し10万円が返って来ない…ということから、ギャンブル依存症家族の会に繋がりました。あれから6年経ちますが、ギャンブル依存症家族の会に繋がりと、この病の残酷さをしみじみ痛感する日々です。ギャンブル依存症について6年の間学んだことで、今思えば、あのアルバイト先の先輩は重症なギャンブル依存症だったのだなと感じます。また次男をはじめ、アルバイト先の社員さん、仲間達のかなりの人達が、110万20万単位でお金を貸してしまっていました。お金を貸すことは、当事者の病をどんどん深刻化させ重症にさせることで絶対にやってはいけなかったことだと、ギャンブル依存症という病を学んだ今ならばわかります。また、次男も大学生だった当時、そもそも入学当時から本来学びたい学部ではなく本人にしてみれば難しく苦痛でしかない授業を日々受けることになり相当生きづらさを抱えていたのだと思います。先輩から誘われた競馬は、生きづらをやわらげる自己治療だったのかもしれませんが。それも私がギャンブル依存症家族の会に繋がってこの病を学ぶ中でわかってきたことでした。ギャンブル依存症家族の会の活動が続ける中で、いかに大学生のうちに発症している若者が多いことか痛感させられる日々です。今や毎月100人を超える当事者や家族がギャンブル依存症家族の会に繋がって来ます。</p> <p>どうか千葉県としても高校生大学生にギャンブル依存症の予防教育に予算を割き依存症対策に力を入れて下さい。私達家族の立場や当事者が自腹で全国に講演活動をするのも資金的には限界を感じています。また人気タレントが広告塔になりオンラインカジノやポートレース競馬など気軽にやってみようと思わせるCMが多いこと…愕然とします。千葉県としても広告規制を行うよう国と連携をはかって下さい。今やギャンブル依存症が深刻化し犯罪に繋がる事件が後を立ちません。ギャンブル依存症は誰でもなり誰でも回復出来る病です。刑罰を与えるだけでなくちゃんと回復プログラムに繋がれば社会復帰し税金も納めてもらえます。もはやギャンブル依存症対策をせず依存症対策規制野放しの日本は海外のカジノ運営会社のカモとなっており、未来ある日本の若者や家族の人生を破壊するばかりです。</p> <p>今こそギャンブル依存症対策のために更にたくさんの予算をあてて下さい。私達家族や当事者の寄付金だけでは到底回復支援のために使えるお金は限られています。どうか千葉県としても国との連携を深めより一層本腰を入れてギャンブル依存症対策のための予算をあてて下さい。</p>	<p>依存症に関する正しい知識の啓発・予防教育について、若年層への普及啓発の取組を推進してまいります。</p> <p>また、公営競技等の広告・宣伝のあり方については、全国公営競技施行者連絡協議会における「公営競技広告・宣伝指針」、全日本遊技事業協同組合連合会等における「広告宣伝ガイドライン」に基づく関係事業者の取組や、国の動向を注視してまいります。</p> <p>また、違法に行われるギャンブル等の取締り等の強化に関して、県警本部や県教育委員会、その他関係機関と連携し、引き続き厳正な取締りを推進するとともに、国内からオンラインカジノに接続して賭博を行うことが違法であることの周知や啓発の強化を図ってまいります。</p>
2	—	1	<p>私の息子(28歳)はギャンブル依存症です。中山競馬場に子供の時から気軽に行ける環境が「競馬(ギャンブル)」に対する抵抗感を下げていたと感じています。ビギナーラックで万馬券となったことがきっかけで発症しました。いまやインターネットでいつでもどこでも競馬ができる環境です。連続性・頻回という環境で、職業を問わず誰でもギャンブル依存症になってしまうことを学びました。自分や周囲を傷つけても「止めたくても止められない、自分でコントロールできない。という状況はリストカットと同じです。ギャンブル依存症は本</p>	<p>計画に基づき、ギャンブル等依存症に係る普及啓発、適切な治療及び回復支援、再発防止等、切れ目のない支援体制を構築し、関係機関との連携の下、取り組んでまいります。</p>

			<p>人の意志と根性では治りません。そして「自分はそんな病気ではない。」という否認の病気でもあります。WHO でも認められているれっきとした進行性の病気で、家族が対応を誤れば悪化してしまい、横領・闇バイトなどの犯罪、自死につながってしまいます。</p> <p>家族も不安と心配でとても苦しいです。しかし「公益財団法人ギャンブル依存症問題を考える会」や「NPO法人ギャンブル依存症家族の会」で、正しい知識を学び、「回復できる病気であること」ことを知り、希望があることもわかりました。昨今、どうしてこれほどまでに日本の若者が闇バイトに走ってしまうほどお金がないのか、立派は職業についている方が職場もお金を横領してしまうのか、そのような事件を数々きいて疑問になりませんか。世の中全体で正しい知識をもち、次世代を担う若者が狙われている由々しき事態に最優先で実効性のある対策を講じていただきたい。</p>	
3	—	1	<p>千葉県はギャンブル産業からのたくさんの収入があります。</p> <p>その収入の一部をギャンブル依存症のための予防教育に使う、ギャンブル依存症で苦しむ人を助けるための予算を増額してほしい。ギャンブル依存症は WHO で認められた脳の病気であるにもかかわらず、意志が弱い人、だらしのない人と世間に誤解されたまま、治療につながる人が少ない病気です。周りに居る家族は借金問題で困っているにもかかわらず、世間体を気にして相談できずにいたりします。</p> <p>ギャンブル依存症の正しい知識をあらゆる人に知らせ、千葉県民が幸せな生活が送れるように千葉県の予算を使ってほしいです。</p>	<p>公営競技等の事業者において、ギャンブル等依存症問題の対策を進めている民間団体に対する補助事業を実施しており、事業者の収益の一部が活用されています。</p> <p>また、ギャンブル等依存症の正しい知識の普及啓発のため、啓発週間での官民連携した相談会の実施やギャンブル等依存症に関する各種情報の周知を行う等、各関係機関と連携して取組を実施してまいります。</p>
4	—	1	<p>【ギャンブルとは何か】</p> <p>ギャンブルは運でどうなるかの遊びだ。運がいいとか運が悪いというのは不意を突かれたものを感じる。化学的に証拠付けると全て説明できるのだろうけど知覚経験できる範囲で利益をもらおうと運が良かったと言いますよね。これが知覚できるものとか計画的なものだと運の遊びではなくなる。例えば、サイコロダイスの中に鉄の重りを入れておいて1の目が出るように細工しておく。彼は何回やっても勝つことを知ってるので運命で左右されることはない。</p> <p>【置換アプローチ】</p> <p>ギャンブルは幸福感を感じる遊びではあるのだが依存症が強い。依存症の原因はドーパミンだとされている。ドーパミンはそれほど珍しいものではない。タバコ、お酒、お茶、コーヒー、セックスなどを摂取しても脳から分泌されます。経験上、ドーパミンを出して幸福感を味わいたいのが栄養の枯渇で依存症になるサイクルを作る</p> <p>と考えられます。それなので、ドーパミンを補給するムクナ豆などのサプリを服用させてドーパミンサイクルの健全化がよいでしょう。ギャンブルは人生の狂気の度合いが強いので別のものでドーパミンを放出するメカニズムを獲得する。依存症会の人でプレゼントをし合う、お茶、コーヒー、認知学習療法などもいいと思います。</p> <p>【結び】</p> <p>人は何でも知ってる訳ではないからですが、人は幸せになるシステムを元々持っているんじゃないでしょうか。本能のようなものなので軌道修正すればいいと思います。</p>	<p>計画に基づき、ギャンブル等依存症に係る普及啓発、適切な治療及び回復支援、再発防止等、切れ目のない支援体制を構築し、関係機関との連携の下、取り組んでまいります。</p>
5	—	1	<p>I 発症予防</p> <ul style="list-style-type: none"> ギャンブル依存症は若年化しているので、啓発には 10-20 代の若者や、当事者、家族の意見を聞いて効果的な実施方法を検討してはどうか。若者の感覚は若者でないと分からないかと思う。若者は冊子読むのかな、どんな冊子か？冊子の配布でやりました感を出して終わらせないで欲しい。 オンラインカジノは違法であることの啓発の実施について、実際の実施方法を具体的に知りたい、効果的な啓発方法を検討して是非とも実施して欲しい。 	<p>オンラインカジノの違法性等についての広報啓発・教育については、県警本部や県教育委員会、その他関係機関と連携して、啓発物(警察庁の作成したポスターに県内の各相談窓口の情報を加えたもの)を作成し、県内の市町村、関係機関及び学校等へ周知・配布しています。</p> <p>また、大学生と共同してイベントに参加する等、大学との連携に</p>

			<ul style="list-style-type: none"> ・ギャンブル依存症問題を考える会で、大学生向けに母校で出張ギャンブル依存症予防教育を実施しているので、利用してはどうか。 ・アクセス制限出来るなら、家族からの依頼でもして欲しい。 <p>Ⅱ 相談支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6年前に県の相談会が予約いっぱい、リカバリーサポート・ネットワーク？と、全国ギャンブル依存症家族の会千葉を紹介された。神田でのリカバリーさん？の相談会で、埼玉への通院を紹介された。当時、将来の不安、経済的な心配の中、遠方への通院を促され辛かった。高額の治療費、交通費…なぜ埼玉と疑問。 <p>Ⅳ 民間団体との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間団体との連携とは？具体的に知りたい。 ・何をやるにもお金がかかるので予算をつけて、任せてはどうか。 	<p>よる普及啓発の取組を実施しており、引き続き、若年層を対象とした正しい知識の普及啓発の効果的な取組を検討してまいります。</p> <p>相談拠点機関である精神保健福祉センターの相談件数は増加傾向にあることから、個別面接相談の回数を増やすなど、相談体制の拡充を図ってまいります。</p> <p>県が主催する相談会や、県及び治療拠点機関で研修会を実施する際に、全国ギャンブル依存症問題を考える会千葉県支部及び全国ギャンブル依存症家族の会千葉に講師を担っていただき、今後も引き続き、連携した取組を充実させてまいります。</p>
6	—	1	<p>近年、オンラインカジノ等の影響もあり、ギャンブル依存症は深刻な社会問題となっています。特に若年層の依存が急速に進み、短期間で病状が悪化するケースが増加しています。</p> <p>依存症対策は医療機関のみでは不十分であり、自助グループや回復施設などへの橋渡しの役割を担う民間支援団体との連携が不可欠です。</p> <p>計画において、家族会などの民間団体との連携を強化し、支援体制を拡充するとともに、対策予算の増額を強く求めます。</p> <p>理由：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依存症の若年化、重症化は喫緊の課題であり、早期発見・早期介入が重要です。 ・家族会などの民間団体は、当事者目線での支援や、地域に根差した活動において重要な役割を果たします。 ・医療と民間団体の連携により、より包括的かつ効果的な支援体制を構築できます。 ・対策予算の増額により、より充実した予防、相談、治療、回復支援体制の構築が可能となります。 <p>その他要望事項：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・依存症に関する広報啓発活動の強化 ・若年層向けの予防教育の推進 	<p>自助グループをはじめとする民間団体との連携や支援の強化などを計画の重点的な取組として位置付け、引き続き、一層の連携を図るとともに、民間団体の活動への支援の充実についても検討してまいります。</p>
7	2 5	1	<p>V-2 違法に行われるギャンブル等の取締りの強化について</p> <p>最近の報道にもあるように、私もオンラインカジノが違法であることがまだまだ知られていないことに危機感を持っております。特に、未成年者や大学生がオンラインカジノにはまり、多額の借金を負って犯罪に走ってしまうケースや家族も巻き込まれてどうにもならなくなって苦しむケースも増えているとききます。</p> <p>未来ある若者がこれ以上苦しむことがないように、オンラインカジノの違法性について広報活動の強化、学校教育や地域社会における啓発活動の推進、また、相談窓口の設置など、より一層のご尽力をいただきますようお願い申し上げます。</p>	<p>違法に行われるギャンブル等の取締り等の強化に関して、県警本部や県教育委員会、その他関係機関と連携し、引き続き厳正な取締りを推進するとともに、国内からオンラインカジノに接続して賭博を行うことが違法であることの周知や啓発の強化を図ってまいります。また、相談窓口の周知にも努めてまいります。</p>
8	—	1	<p>現在のギャンブル依存症問題でもっとも喫緊の対策を要するのがオンラインカジノです。「試案」におけるオンラインカジノの記載は 2 か所で取り締まりと周知・啓発に言及するのにとどまっています。これだけでは不十分だと思います。オンラインカジノは高校生世代から広がってきています。「ともだち紹介ポイント」があるため、友人関係を介して、被害が広がっています。これは大学生世代になるとさらに拡大しています。</p> <p>こうした、若い世代に対する具体的な周知・啓発・教育の具体策をもっと盛り込んでもらいたいと思います。</p> <p>千葉県内には数多くの大学が存在しています。国立であれ、私立であれ、学生の多くは千葉県民です。彼らに監督官庁の枠を超えて、自治体としての千葉県がもっと働きかけをしてもらいたいと切に願います。</p> <p>担当部局に県教育委員会保健体育課が入っているのは結構ですが、問題は保健体育の範疇にとどまりません。担当部局の拡大も要請します。</p>	<p>違法に行われるギャンブル等の取締り等の強化に関して、県警本部や県教育委員会、その他関係機関と連携し、引き続き厳正な取締りを推進するとともに、国内からオンラインカジノに接続して賭博を行うことが違法であることの周知や啓発の強化を図ってまいります。</p> <p>なお、県教育委員会では、学校教育における新学習指導要領の内容の周知や、ギャンブル等依存症も含めた依存症の知識を深めるための予防教育を行っており、引き続き関係機関と連携した対応を行ってまいります。</p>

			<p>税金などの形で国は取りまとめ、そこから公平性透明性を持った団体に配分すべきである。</p> <p>ギャンブル依存症対策の充実に向けて、対策費用の増額とともに、民間資金の導入や新たな財源の確保なども検討していただきたいと考えます。例えば、ギャンブル産業からの拠出金や、地域社会への還元金を活用するなどが考えられます。</p>	
12	—	1	<p>一般社団法人インターネットコンテンツセーフティ協会の取り組みのように、オンラインカジノサイトやアプリ、YouTube 上のアフィリエイト動画等は、違法コンテンツとしてブロック・規制してほしいです。</p> <p>公益社団法人ギャンブル依存症問題を考える会のアンケート調査では、オンラインカジノによって 1 週間で借金してしまった人もいるほど、のめり込むのもお金がなくなるのも早い危険なギャンブルです。オンラインカジノの無料版といった明らかに有料版に引き込む目的のあるものについても同様に規制してほしいです。</p> <p>また、公営競技に関しても、千葉県内にある競技場へオンラインで賭けられるサイトやアプリなどでは「お友達紹介ポイント」「初回登録限定〇円分プレゼント」などのサービスを取り締まってほしい。悪気なく友人を誘った人が、友人をギャンブル依存症によってなくす危険性があります。子どもたちや学生への啓発教育に関してはぜひ推進してほしい内容でした。可能ならば順次、企業に勤める大人にも実施してほしいです。</p>	<p>インターネット規制については国の動きを注視してまいります。</p> <p>また、依存症に関する正しい知識の啓発・予防教育について、若年層への普及啓発の取組を推進してまいります。</p>